

未来技術×地方創生検討会（第2回）議事要旨

日時：平成31年2月28日（木）14:00～16:00

場所：中央合同庁舎4号館4階共用第四特別会議室

出席：神尾委員、佐藤委員、中村委員、松崎委員、吉田委員

ゲスト：RAUL(株) 江田健二 代表取締役社長、日本電信電話(株) 瀬戸りか 研究企画部門プロデュース担当、(株)NTTドコモ 川野千鶴子 法人ビジネス本部第一法人営業部地域協創・ICT推進室担当、愛知県春日井市 水野真一 まちづくり推進部ニュータウン創生課長、日立総合病院救命救急センター 園生智弘 救急専門医、(株)ナウキャスト 赤井厚雄 取締役会長

事務局：森山事務局次長、高橋次長、川合次長、中原審議官、田川次長、菱山次長、佐合参事官、寺本参事官、菅田企画官

オブザーバ：内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室参事官、内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当）付参事官（統合戦略）付企画官、金融庁総合政策局総合政策課課長、総務省大臣官房企画課課長（代理）、文部科学省大臣官房政策課長（代理）、厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官（代理）、農林水産省大臣官房技術政策室長（代理）、国土交通省総合政策局政策課長、環境省大臣官房総合政策課政策評価室長（代理）

配布資料：

- | | |
|-------|--------------------|
| 資料2-1 | 「未来技術×地方創生検討会」について |
| 資料2-2 | 佐藤委員提出資料 |
| 資料2-3 | 松崎委員提出資料 |
| 資料2-4 | 江田氏提出資料 |
| 資料2-5 | 瀬戸氏・川野氏提出資料 |
| 資料2-6 | 水野氏提出資料 |
| 資料2-7 | 園生氏提出資料 |
| 資料2-8 | 赤井氏提出資料 |

議事要旨：

1. 開会

開会にあたり座長（欠席）から指名された事務局高橋次長より開会のあいさつ、事務局から松崎委員の追加及び中間とりまとめに向けた後半の日程について説明があった。

2. 委員からの発表

佐藤委員から自己紹介及びAI協創社会に向けた集合知の形成や、高専・地方大学と地方企業、クラウド・専門知識の共有を図る地方創生事業等について発表があった。引き続き、松崎委員から、自己紹介及び神戸市のオープンデータ、電子自治体、防災等について発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

（神尾委員）

AIの資格試験において合格率や地域バランス、外国人等の属性はどうだったか。

（佐藤委員）

G検定（ジェネラリスト）は合格率60%強、ビジネス寄りの受験者が多い。E資格（エンジニアリング）も合格率60%強で、学生や研究者が多い。残念ながら東京の人が多く、日本語の試験なので日本人が多い。

3. ゲストスピーカーの発表

①エネルギー・環境分野

江田社長から、ブロックチェーンがつなぐエネルギーの世界やパッケージ化されていくエネルギーのビジネスモデル、いつでもどこでも好きなだけ使える 20 年後のエネルギー像等の発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

(神尾委員)

ブロックチェーンや IoT でつながると、ブロックや地域の考え方はなくなるのか、ブロックの中で需給均衡するようマネジメントするのか。

(江田社長)

地域配電網の 6 千世帯毎に電気を融通する「葉っぱ」で太陽光発電や蓄電をする。既存電力会社はその葉っぱをつなぐ枝や幹。葉っぱの部分を地域の最適な発電とシェアリングで賄っていく。

(吉田委員)

エネルギーの世界のグーグルは日本に生まれるのか。

(江田社長)

技術力や色々な会社があるのが日本のアドバンテージ。海外から日本に来る前に日本に生まれてほしい。ただ、電気事業法や計量法を変えないとエネルギー業界のグーグル事業はできない。それが変わると、今後新しく電力網をつくる東南アジア諸国に輸出できる。

(中村委員)

会津若松で再生可能エネルギーへのシフトを試みているが、国民性からか市民の意識改革が進まず買おうとしない。日本の電力のグーグルのためには、企業側より国民側にシフトを意識させる必要がある。

(江田社長)

その通りで、発電する側と利用する側と意識が離れている。住民の関心を高めることで電気の地産地消が進み、最適なシェアリングができる時代が来る。

②農業・IoT 分野

瀬戸プロデュース担当及び川野担当から、NTT ドコモのアグリガールや 48 団体が参加する IoT デザインガールの活動内容、5 G を活用した地方創生の推進等について発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

(神尾委員)

デザインガールの収支など株主への説明はどのようにしているのか。

(瀬戸担当)

NTTグループとしては農業や教育など地域の発展に貢献することがテーマの一つ。CSR ではなく CSV として農業 ICT の売上げや 5 G 案件の創出として説明している。未永く地域貢献をしていく。

③自動運転分野

水野課長から、高蔵寺ニュータウンの先導的モビリティを活用したまちづくり実証試験について、子育て世代の流出防止や高齢者の外出機会の増加の取組等について発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

(吉田委員)

先導的モビリティの説明にあった、初乗りの運賃を 1.2km に限定するとはどういうことか。

(水野課長)

1.2km 以内でリクエストをした時は、ボランティア輸送が選べる。1.2km としたのは既存タクシー事業者の事業採算性との関係で、初乗り運賃の距離で役割分担することになった。

(神尾委員)

モビリティを使う主体の年齢層は上がっているのか。外出機会以外に独居老人の見守りや配達とセットにしたモビリティを考えてはいないのか。

(水野課長)

独居老人が増えているのは事実。配達は民間ベースでやられており、本市としては、いかに外出してもらうかが課題。名古屋大との COI 事業では、AI を使った外出促進を実証しており、高齢者にスマホを渡して今日の体調を問いかけ、商業施設の広告を盛り込み、今日は安いよと行動を促している。

(佐藤委員)

18 頁の事例 2 では、遠隔操作で自動運転がレベル 4 とあるが、自動運転なのか遠隔操作なのか。

(水野課長)

運転席に人なしで自動運転するのでレベル 4。危険な時に遠隔操作で手動に切り替えられる。

④救急医療分野

園生救急専門医から、救急医療・地域医療×テクノロジーの現状と課題について、救急医療と地域医療におけるデータ連携の重要性や、若手医師の思考と地方都市での医療の取組、未来の救急医療の姿等について発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

(松崎委員)

PHR について、地域医師会等との関係でルールづくりはされているのか。

(園生専門医)

PHR は、個人的な考えも含まれるが、医療機関の階層が違ふところに行くとき役立つ。救急搬送先だと医療機関のセグメントが大きく変わるため、情報連携がないと困る。どの救急医も、地域の医療連携システムと救急プラットフォームがつなげられないかと話す。

(神尾委員)

情報交換により経営力や医療技術、場所のいいところに優秀な医師が集まるとなると、ネットで結ばれる過疎医療でも優秀な病院が残るのか。

(園生専門医)

いい病院の定義のパラダイムシフトの最中だと思う。従来いい病院とは、大学病院、地域の大病院であったが、症例数が多く、IT/教育プロジェクトと組み合わせさせた地域の中核病院や、こうした発信の上手な市中病院がかなり人気。

(中村委員)

サイバーホスピタルの事例で、音声入力モジュールは、電子カルテの PC 入力をなくすところまで来ているのか。

(園生専門医)

医療現場で現在音声が多く使われているのは、放射線画像や病理での入力。救急医療では、同じ端末の前に座っている時間がないので、バイタルサインの入力時に音声で入れれば、適切などころに情報が格納されるというような形が有効であると考えている

⑤都市再生・金融分野

赤井会長から、クラウドファンディングを活用した地方創生の意義やクラウドファンディングを組み込んだ近未来の金融システム、キャッシュレス決済による民間ビッグデータを活用したモニタリング等について発表があった。その後の主な意見等は次のとおり。

(神尾委員)

クラウドファンディングについて、全国から地域への流れと、フローに近い地産地消の流れ、又はそのミックスと、今後の方向性は教えて欲しい。

(赤井会長)

地方には魅力あるプロジェクトが多いので、自然体でいくと大都市から地方へと流れる。ただし、公有地の空き地で代替エネルギーを提供する熊本県民発電のようにプロジェクトのリターンが地域のアセットのような場合、最初の一定期間、県民限定で買ってもらった。リターンがキャッシュでなくモノにすればリターンの還元だけでなく地域で消費できるようにも設計できる。

4. 全体討議、その他

神尾委員から、技術を活用した地方の活性化に資する様々な施策についてオブザーバの各省庁からも時間があればご発表いただければとの提案があり、事務局が日程を確認した結果、4月10日(水)の第4回会合でオブザーバ関係省庁から発表をお願いすることとなった。

最後に事務局から、次回会合について、3月13日(水)10-12時を予定している旨、説明があった。

5. 閉会